

[原著] 松本歯学 21 : 280~290, 1995

key words : 歯周病患者 — 質問表 — 統計

歯周病患者の統計的観察  
第6報 昭和61年～平成元年における初診時質問表について

野村 寿, 上條博之, 山崎誠司, 大野美知昭  
溝口貴志, 小野 睦, 戒能 正, 嶋田求治  
上田剛弘, 植木健雄, 太田紀雄

松本歯科大学 歯周病治療学講座 (主任 太田紀雄 教授)

A Statistical Studies on the Patients With Periodontal Diseases  
Part 6. Observation from questionnaires given patients,  
in 1990~1992 during their first visit to the clinic

TOSHI NOMURA, HIROYUKI KAMIJYOH, SEIJI YAMASAKI  
MICHIAKI OHNO, TAKASHI MIZOGUTI, MUTUMI ONO  
TADASHI KAINOH, MOTOHARU SHIMADA, TAKAHIRO UEDA  
KENYU UEKI and NORIO OTA

*Department of Periodontology, Matsumoto Dental College  
(Chief : Prof. N. Ota)*

**Summary**

It is very important to consider the condition of patients prior to periodontal treatment. The authors investigated questionnaires filled out by 427 periodontal patients (207 males and 220 females) during their first visit to the periodontics department of Matsumoto Dental College Hospital between 1990 to 1992.

The questions related to age, chief complaint, favorite food, habits, periodontal treatment experience and systemic diseases. Results were classified by sex and age.

The results were as follows :

1. There were several male patients in the 40~49 year-old age group.
2. In most cases the chief complaint was food impaction.
3. Among the 50~59 year-old male patients, responses to favorite food included drinking and smoking.
4. The 50~59 year-old patients had the greatest experience with prior periodontal treatment. Scaling had been done on 49.6% of them. In most cases their brushing was two times per day.

5. With regard to habits 44.5% of patients snored and most of these were male.
6. Many of the 50~59 year-old patients had hypertension, although this figure was higher in the 40~49 year-old patients.

## 緒 言

歯の喪失の最大の原因である歯周病の治療や予防は、高齢化社会の到来に伴い、国民の健康志向や8020運動等の時代のニーズの中で益々重要性を増すと思われる。

歯周病患者がどのような状態で来院するか初診時の実態を把握することは歯周治療や予防を行なううえで大変重要かつ必要なことである。そのための一方法として、問診や多くの各種診査法があるが、中でも問診の補助としての質問表からは、多くの重要な情報を得ることができる。

我々は昭和53年から昭和60年までに来院した患者の初診時の質問表について各項目別の調査結果をすでに報告してきた<sup>10)</sup>。その後、昭和61年より質問表の内容を検討し、より多くの情報を得るために新たに項目を追加して引き続き調査を行ってきた。今回は、昭和61年から平成元年までの間に来院した患者に対して、同様の方法を用いて質問表の各項目を調査し、前回<sup>10)</sup>までの結果と比較検討をしたので報告する。

### 調査対象および研究方法

#### 1. 調査対象

昭和61年より平成元年までの4年間に松本歯科大学病院歯周病科に来院した患者のうち男性207名、女性220名の計427名を対象とした。

#### 2. 研究方法

歯周病科では、初診時の主訴や口腔の状態を診査するために質問表(表1, 2)への記入を患者に指示している。この表には全部で64の項目があり、従来よりもさらに細かく患者の希望や全身の状態、口腔衛生に対する意識等が把握できるようにした。また新たにアレルギーに関する4項目、全身の現状態について5項目、家族歴、全身疾患の既往歴は従来4項目の他にさらに7項目加えた。この中から、前回<sup>10)</sup>調査した項目については今回も同様に調査し、性別、年齢別分布を比較検討した。そして、新たに追加した項目については、他の項目との関連性についても検討した。

## 結 果

### 1. 患者年齢別分布(図1)

来院患者の構成は、50歳代が34.7%と最も多く、これは前回<sup>10)</sup>までの調査結果が40歳代で30%台であったのとは異なっていた。次いで40歳代25.8%、30歳代25.9%の順であった。性差はほとんどないが、わずかに女性が男性を上回った。

### 2. 主訴別分布(図2)

質問表Bの1~9(表2)が主訴に相当し、それぞれ掻痒感(歯ぐきがむずがゆい)、出血(歯を磨く時やリンゴを食べる時に、歯ぐきから血が出る)、異和感(朝起きた時に、口がねばねばするような不快感)、排膿(歯ぐきから膿が出る)、腫脹(時々歯ぐきのはれることがある)、口臭(人から口が臭いといわれる)、咀嚼障害(固いものがかみにくくなった)、食片圧入(歯の間に食物がはさまる)、歯列不正(歯が動いたり歯並びが悪くなってきた)の各項目に分類し調査したところ、食片圧入が最も多く74.0%で、次いで歯列不正の56.0%、以下出血、腫脹、咀嚼障害が同数で52.7%を占めた。前回<sup>10)</sup>においては、同じく食片圧入が最も多く、次が出血であった。他の3つについても50%以上を占めた。

次に、各項目と年齢、性別との関係を見ると、腫脹以外の全項目において50歳代が最も多く、中でも食片圧入は40.2%を占めた。腫脹のみ40歳代が29.9%で最も多かったが、50歳代も28.0%を占めており、ほとんど差はなかった。前回<sup>10)</sup>では、年齢別と同様に、男性は全て40歳代が最も多かった。女性も排膿が50歳代に多かった以外、40歳が多かった(図3~11)。

### 3. 嗜好品別分布

喫煙をする人は全体の29.7%で、そのうち男性が25.1%と圧倒的に多かった。年齢別では50歳代、30歳代、40歳代の順であった。

飲酒をする人は36.8%を占め、やはり男性が多く31.6%であった。年齢別ではやはり50歳代、30歳代、40歳代の順であった。前回では、年齢別が50歳代、30歳代、40歳代の順であった。また、喫

表1

健康調査表 (Health questionnaire)		患者氏名	生年月日
		担当医氏	住所
<p>A 質問をよくよんで答に○印をつけて下さい。</p> <p>(はいならばはい, いいえならばいいえ, 全部の質問にお答えください。)</p>			
1. 昨年1年間のうちに, かかりつけの医師の検査を受けたことがありますか?	はい  いいえ		
2. 現在, 医者にかかっていますか?	はい  いいえ		
3. これまでに何か薬を常用したことがありますか?	はい  いいえ		
4. これまでに全身的な健康状態で何か変化がありましたか?	はい  いいえ		
5. この数カ月間で体重の増減がありましたか?	はい  いいえ		
6. 重い病気にかかったことがありますか?	はい  いいえ		
7. 入院したことがありますか?	はい  いいえ		
8. 外科的処置(手術)を受けたことがありますか?	はい  いいえ		
9. 輸血してもらったことがありますか?	はい  いいえ		
10. よく病気をしますか?	はい  いいえ		
11. 今までに次の病気や症状の経験がありますか?	はい  いいえ		
A 黄疸(皮膚や眼が黄ばんでくる)	はい  いいえ		
B 肝 炎	はい  いいえ		
C 心臓病	はい  いいえ		
D 高血圧	はい  いいえ		
E 胃潰瘍	はい  いいえ		
F てんかん	はい  いいえ		
G 糖尿病	はい  いいえ		
H 麻 疹	はい  いいえ		
I 腎臓病	はい  いいえ		
J 流行性耳下腺炎	はい  いいえ		
K ポリオ	はい  いいえ		
L リウマチ熱	はい  いいえ		
M 血液病	はい  いいえ		
12. 次の薬物のうちどれかを服用して異常な反応を示したことがありますか?	はい  いいえ		
A ペニシリン	はい  いいえ		
B パルピツール酸塩(睡眠薬)	はい  いいえ		
C アスピリン	はい  いいえ		
D ヨウ素製剤	はい  いいえ		
E サルファ剤	はい  いいえ		
F その他の薬物	はい  いいえ		
13. 歯科の麻酔(キシロカイン注射)をして異常な反応がおきたことがありますか?	はい  いいえ		
14. 何か特定のもの(食物, 猫の毛, 埃など)に対するアレルギーがありますか?	はい  いいえ		
15. 蕁麻疹や皮疹がでやすいですか?	はい  いいえ		
心臓と呼吸器系			
16. 現在, 心臓の調子に異常がありますか, 過去にはありましたか?	はい  いいえ		
17. 血圧が高いですか, 低いですか?	はい  いいえ		
18. 激しく運動したあとと胸が痛くなることがありますか?	はい  いいえ		
19. ちょっと無理をすると息切れがしますか?	はい  いいえ		
20. 足首がよくはれますか?	はい  いいえ		
21. 咳が止まりにくいですか?	はい  いいえ		
22. 喘息の病歴がありますか?	はい  いいえ		
血 液			
23. ケガをしたとき血が止まりにくいですか?	はい  いいえ		
24. 打撲のあとがアザになりやすいですか?	はい  いいえ		
25. 貧血(薄い血)のような血液疾患がありますか?	はい  いいえ		
胃腸, 消化器系			
26. 最近, 食欲不振ですか?	はい  いいえ		
27. 消化不良をよくおこしますか?	はい  いいえ		
28. 嘔吐がありますか?	はい  いいえ		
29. 嚥下困難がありますか?	はい  いいえ		
泌尿器系			
30. 喉がよく渇きますか?	はい  いいえ		
31. トイレに近い方ですか?	はい  いいえ		
32. 腎疾患, 膀胱疾患がありますか?	はい  いいえ		
内分泌, 神経			
33. 体のどこかがしびれたり, ひりひりした感じになることがありますか?	はい  いいえ		
34. 体のどこかが完全に麻痺したことがありますか?	はい  いいえ		
35. よく発作や痙攣を起こしますか?	はい  いいえ		
36. 気を失ったりすることがよくありますか?	はい  いいえ		
37. ひどい頭痛に襲われることがありますか?	はい  いいえ		
自分のことを神経質な人間と 생각합니다か?	はい  いいえ		
		患者の署名	

表 2

## B 特に歯周（病）に関する質問です。

1. 歯ぐきがむずがゆいですか。 はい いいえ
2. 歯を磨くときやリンゴを食べる時に歯ぐきから血が出ますか。 はい いいえ
3. 朝起きた時に口が粘ばねばするよ  
うな不快感はありますか。 はい いいえ
4. 歯ぐきから膿が出ることがありますか。 はい いいえ
5. 時々歯ぐきのはれることがありますか。 はい いいえ
6. 人から口が臭いといわれますか。 はい いいえ
7. 固いものがかみにくくなったと思  
いますか。 はい いいえ
8. 歯の間に食物がはさまりますか。 はい いいえ
9. 歯が動いたり歯並びが悪くなって  
来たと思いますか。 はい いいえ
10. 今までにタバコのやにや歯石を  
とってもらったことがありますか。 はい いいえ
11. 歯肉炎や歯槽膿漏症の治療をうけ  
たことがありますか。 はい いいえ
12. それはどのような治療でしたか。  
歯石をとる 歯ぐきの手術  
歯の固定 歯をぬく その他
13. 現在自宅での手当は。  
歯ブラシ(1日 回) 歯ブラシ名 \_\_\_\_\_  
歯ぐきのマッサージをする  
歯ブラシの交換時期 ( カ月毎)
14. 歯ぎしりの癖がありますか。 はい いいえ
15. 鼻がつまって口で呼吸することが  
ありますか。 はい いいえ
16. いびきをかきますか。 はい いいえ
17. 爪, パイプなどをかんだりくわえ  
たりする癖がありますか。 はい いいえ
18. あなたの家族で歯槽膿漏症にか  
かった方がありますか。  
(祖父母, 父母, 兄, 弟, 姉, 妹, その他) はい いいえ
19. 食物については蛋白質(肉, 魚,  
貝など), 脂肪(バター, 天ぷら, フ  
ライなど), 炭水化物(米, パン, う  
どんなど), 果物, 野菜, どんなもの  
がすきですか。
20. 固い食物(落花生, 塩豆, カタ焼セ  
ンベイ, するめなど)が好きですか。  
好む 普通 好まない
21. 酒はのみますか。  
のむ(1日 ml) のまない
22. タバコを吸いますか。  
すう(1日 本位) すわない
23. 月経は何才の時に始まりました  
か。なくなったのはいつからですか。  
満 才 満 才
24. 月経は規則正しくありますか。  
正しい 時々乱れる 不順
25. 月経の時に頭痛, 腹痛などがあり  
ますか。  
強い 時々ある ない
26. 現在妊娠していますか, 又妊娠は  
何回しましたか。  
回

患者の署名

\_\_\_\_\_

患者年齢別分布

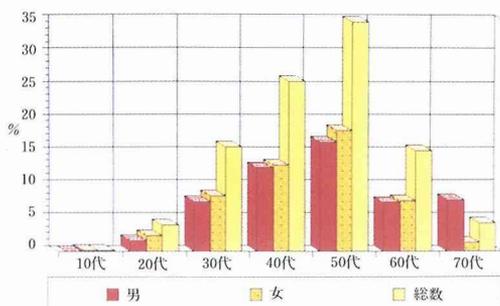


図1

出血

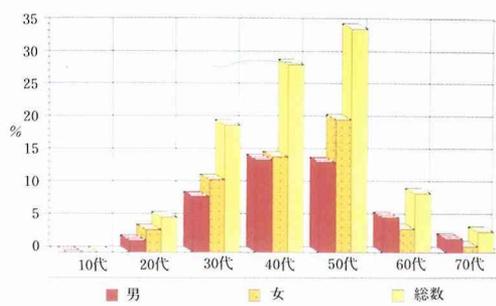


図4

主訴別分布

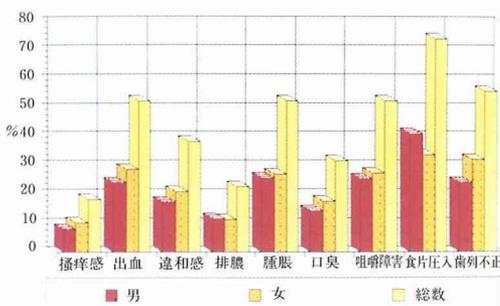


図2

違和感

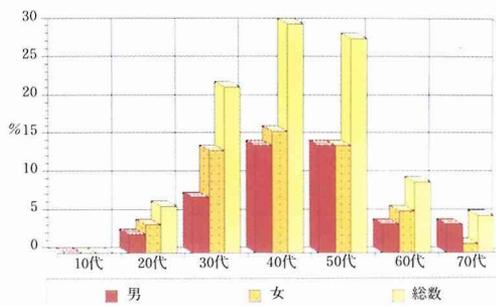


図5

掻痒感

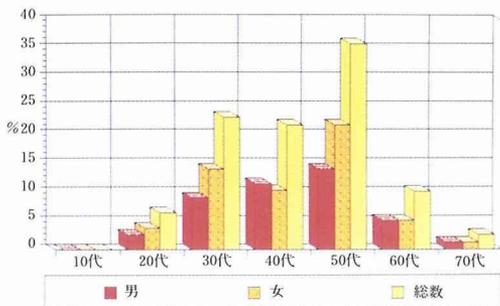


図3

排膿

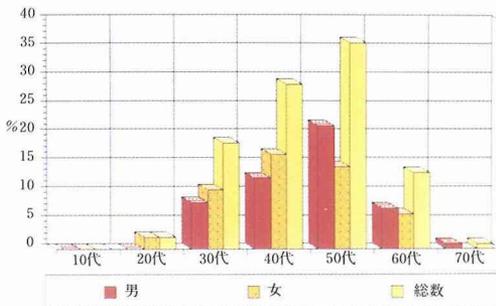


図6

煙、飲酒ともに前回<sup>10)</sup>より、10%近くの減少が認められた(図12)。

食品の好みでは、蛋白質が最も多く75.2%で、以下炭水化物、脂肪、果物の順で野菜が最も少なく27.2%であった。前回<sup>10)</sup>は果物が最も少なかったがそれ以外はほぼ同じ結果となった(図13)。

食品の固さの好みでは、全体の35.4%が固いものを好むという結果であり、好まないとする人の

約3倍という結果であった(図14)。

4. 過去における治療経験の有無(図15~17)

歯石除去の経験者は49.6%におよび、男女とも50歳代が最も多かった。前回<sup>10)</sup>より、およそ15%の減少が認められた。

また、何らかの歯周治療経験者は38.4%でやはり多いのは50歳代であった。前回<sup>10)</sup>は、男女とも40歳代が最も多く、歯周治療経験者は4%とわずか

腫脹

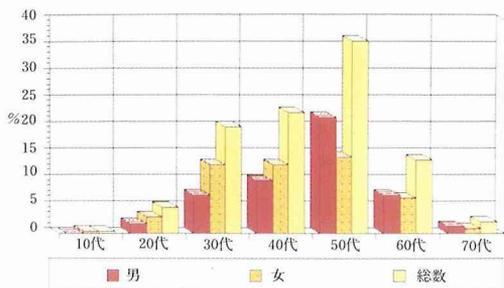


図 7

食片圧入

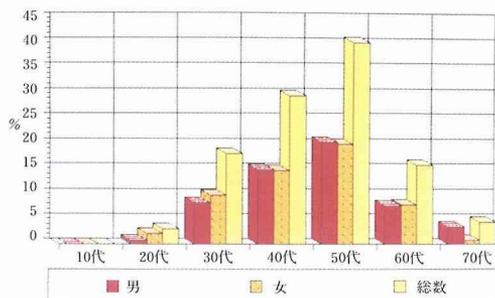


図10

口臭

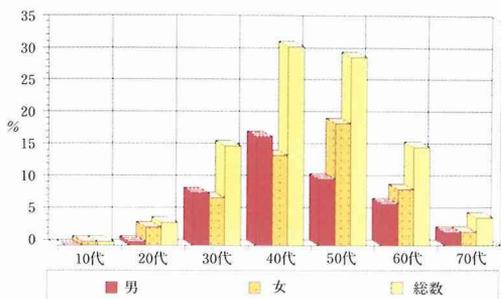


図 8

歯列不正

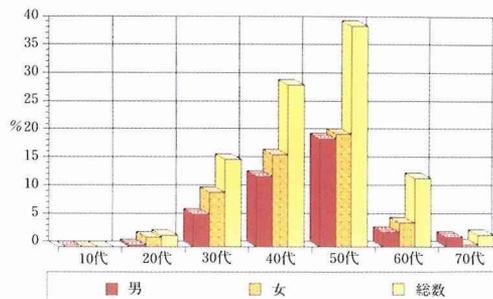


図11

咀嚼障害

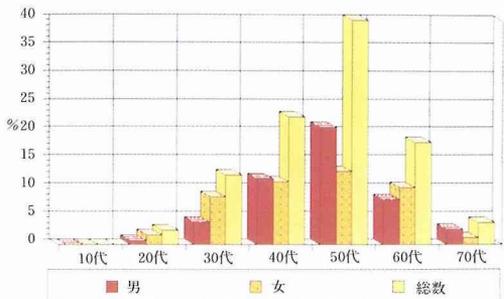


図 9

嗜好品(喫煙、飲酒)

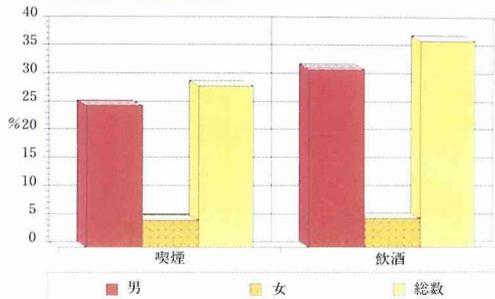


図12

ではあるが、増加が認められた。

5. ブラッシングの回数 (図18)

1日2回行なっていると答えた患者が最も多く42.6%を占めた。次いで1日3回, 1日1回の順であった。1日1回と答えた23.3%中男性は17.1%と高い値を示した。前回<sup>10)</sup>も同じく, 1日2回と答えた患者が45.6%と最も多かったが, 次は1日1回が多く33.1%であった。そのうち, 男性

は26.5%であった。

6. 悪習癖の分布 (図19)

いびきの割合が高く44.5%で, 男性が27.4%を占めた。次いで口呼吸の20.0%, 歯ぎしりの10.8%, 咬爪癖・パイプは2.6%であった。いずれも男性に多い傾向がみられた。また, 年齢別では咬爪癖・パイプを除き, 50歳代の割合が最も高かった。前回<sup>10)</sup>の結果と比較して, 年齢別では40歳代が

嗜好品(食品)

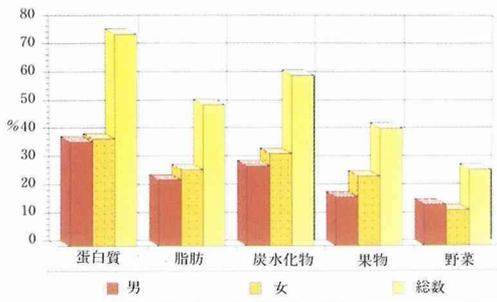


図13

歯石除去経験

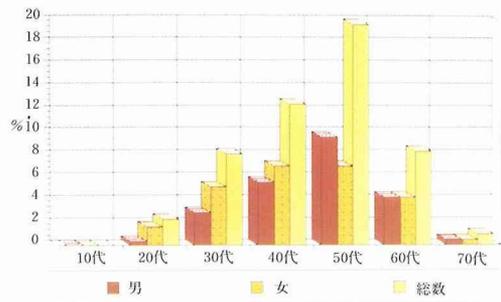


図16

食品の固さの好み

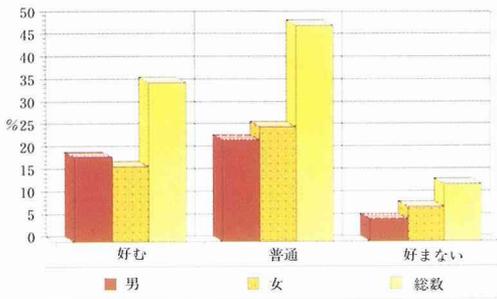


図14

歯周治療経験

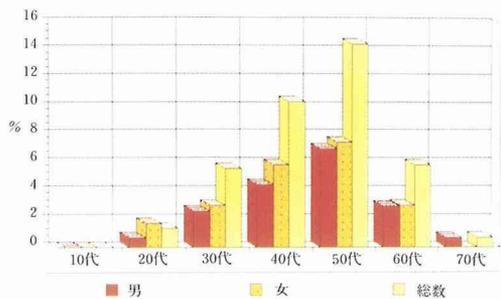


図17

治療経験有

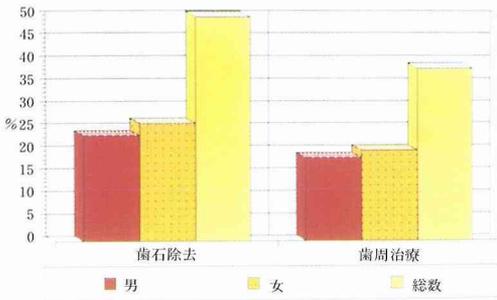


図15

ブラッシングの回数

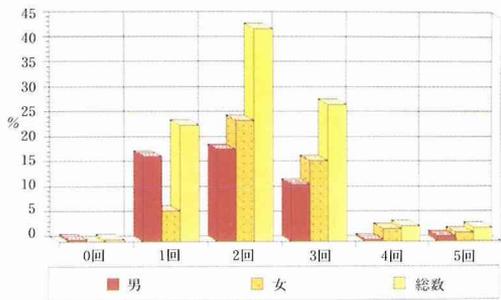


図18

最も多かったが各項目別については、ほぼ同じ傾向を示した。

7. 全身疾患の既往歴別分布 (図20)

過去において、入院、手術経験のある人は24.0%であり、50歳代が最も多く8.3%であった。

次に、全身疾患における前回<sup>10)</sup>の報告と同じ項目についての調査結果では、高血圧が最も多く16.4%を占め、50歳代が7.5%、次いで60歳代、40

歳代の順であった。次に多かったのは心疾患の6.6%で、以下糖尿病4.9%、肝炎4.4%と続いた。

今回、これらの項目以外に新しく黄疸、胃潰瘍、てんかん、麻疹、流行性耳下腺炎、ポリオ、血液疾患の7項目を追加し、調査を行なった。その結果、最も多かったのは流行性耳下腺炎で19.9%、次いで麻疹の17.1%、胃潰瘍16.4%であった。その他の4つの項目はいずれもごく少数であった。

悪習癖

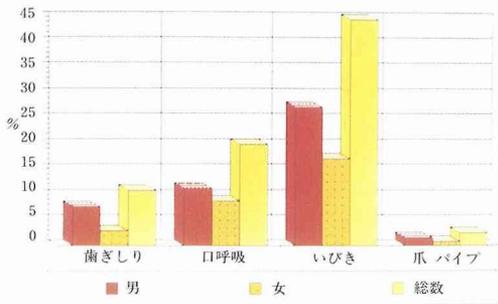


図19

全身の状態

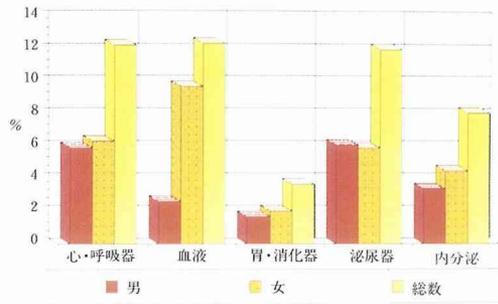


図22

全身疾患の既往歴

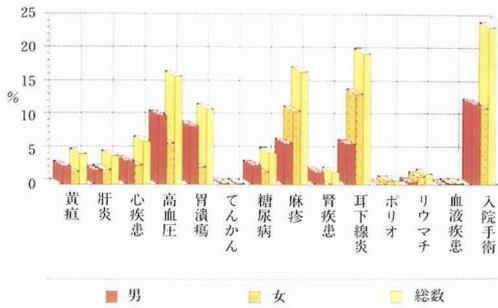


図20

家族歴

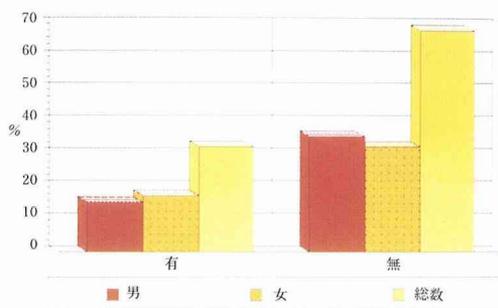


図23

アレルギーの分布

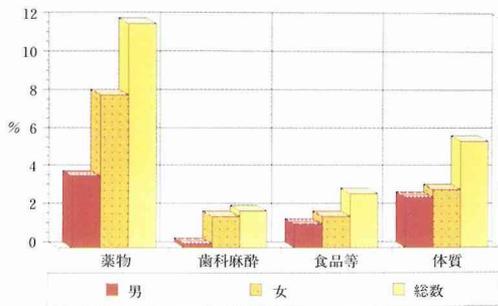


図21

8. アレルギーの分布 (図21)

新しい項目として、今回アレルギーに関する4つの項目を追加した。その結果、薬物に対するアレルギーの割合が最も高く11.7%であった。女性が8.0%を占めていた。蕁麻疹や皮膚がでやすい、いわゆるアレルギー体質が次に多く5.6%で、以下食品によるもの2.8%、歯科麻酔によるもの1.9%という結果であった。また、薬物によるアレ

ルギーにおいて50歳代は5.1%で、そのうち4.4%は男性であった。次が40歳代で3.7%、女性は2.3%であった。いずれも低い値ではあるが歯周治療をするうえで特に重要視し、経験ありと答えた患者については、より慎重な問診を進める必要があると思われる。

9. 全身の状態の分布 (図22)

この項目も、今回新しく追加したものである。全身の状態を大きく分けて、心・呼吸器系、血液、胃腸・消化器系、泌尿器系、内分泌・神経の5項目とし、調査を行なった。その結果、血液12.3%、心・呼吸器系12.2%、泌尿器系12.0%の順で多く、そのいずれもが50歳代の割合が高かった。これらについても傾向を知ることによって、当歯周病科を受診している患者の全身状態を十分認識して、より細やかな患者管理ができると思われる。

10. 家族歴 (図23)

家族歴も今回新たに調査を行なった。結果は、家族に歯周炎の既往のある人は32.3%を占めた。男女はほぼ同数であった。

## 11. 女性に関する調査結果

初潮年齢は14歳が最も多く21.8%で、閉経年齢は50歳で19.0%であった。また、生理不順のある人は10.6%で、生理痛が強い人の割合は11.0%であった。妊娠回数では2回が最も多く46.7%で、以下3回の28.1%、4回の12.6%の順であった。閉経年齢に多少の増加が認められた以外は、前回<sup>10)</sup>とほぼ同じ結果であった。

## 考 察

来院患者の年代別分布では、男女とも50歳代が最も多かった。これは、我々の行なった前回<sup>10)</sup>の調査時の、40歳代が最も多いという結果とは異なっている。30～50歳代で全体の70%を占めている点は松木ら<sup>1)</sup>の報告と同様の結果であるが、30歳代と60歳代との差はほとんどなくなった。このことは初診患者の高齢化を示しており、神田ら<sup>2)</sup>の報告と同様の結果となった。また、性別では女性の患者数が男性をやや上回った。これは、新谷ら<sup>9)</sup>、北村ら<sup>12)</sup>、佐々木ら<sup>9)</sup>による、大病院における来院患者は女性が多いという報告と同様である。

主訴については、前回と同様食片圧入が最も多く、上野ら<sup>3)</sup>、浦ら<sup>4)</sup>の報告と一致したが、その次に多かったのは歯列不正で、他の報告では上位ではないが、近年いわゆる“歯並び”を気にする人が増えてきたのではないと思われる。以下、出血、腫脹、咀嚼障害が50%以上の高い割合であった。

我々は、第2報<sup>5)</sup>、第3報<sup>6)</sup>において食片圧入を主訴とする患者の約半数は軽度の歯周疾患患者であることを報告したが、このことから来院患者の年齢は高まりつつあるが、疾患の程度はこれまでとあまり変わらず、全体の約1/3の患者は比較的軽度のうちに来院しているものと推察される。

次に、喫煙をする人の割合は前回<sup>10)</sup>の48.7%に比べて大幅に減少した。飲酒に関しても前回<sup>10)</sup>の41.9%からやはり減少がみられた。喫煙、飲酒と歯周疾患の進行程度に関してはいくつかの報告<sup>9)</sup>があり、喫煙者および飲酒量の多い患者には疾患の進行した例が多くみられ、新谷ら<sup>9)</sup>の報告では特に喫煙に関して統計学的に有意差が認められたと述べている。近年、喫煙による人体への悪影響がマスコミ等によって広く一般に浸透してきており非喫煙者の割合が増加しつつあるが、今回の結

果でもこのことは明らかである。青山<sup>13)</sup>は喫煙は、歯周組織に対しても循環障害を引き起こし、またプラークの形成量も多くなるため歯周疾患を増悪させると報告している。従って、喫煙者の減少は歯周疾患の減少につながると考えられる。

食品の好みについては、前報<sup>10)</sup>よりも蛋白質、脂肪が増加し、野菜が減少した。食品と歯周疾患との関係を調査した報告はあまり多くないが、ビタミンCの不足による歯肉出血、また、ビタミンDの不足によりCa、Pの吸収不全が引き起こされることはよく知られている<sup>11)</sup>。従って、野菜を好む人の減少は、歯周疾患との関連においてあまり好ましくない結果であるといえる。

次に、食品の固さの好みにおいて、固いものを好む人が好まない人の3倍強であるという結果であったが、これは前回<sup>10)</sup>よりも増加した。新谷ら<sup>9)</sup>は、歯周疾患が進行するほど固いものを好む人の割合が減少し、好みの変化があることを報告しており、その原因として彼らは、歯周疾患の進行と並行して歯の動揺度も増加するため、さらに悪化し固いものが食べにくくなることをあげている。ある程度固い食品を咀嚼することは生理的に必要であると考えられるが、一旦歯周疾患に罹患した後もさらに固い食品を好むことは、歯周組織への悪影響という点において問題があると思われる。

過去における歯周治療経験では、約半数が歯石除去、約1/3が何らかの歯周治療を受けたことがあると答えていた。上野ら<sup>3)</sup>は、歯石除去は女性に多く、歯肉の処置は男性に多いという調査結果を報告しているが今回の調査では男女はほぼ同数であった。

ブラッシングの回数については、1日2回の方が半数近くを占め、ついで1日3回、1日1回の順であり、これは上野ら<sup>3)</sup>の報告と一致した。また、1日1回が男性に多いという点でも同様であった。新谷ら<sup>9)</sup>は、女性の場合疾患が進行するに従って回数が多くなると述べており、浦ら<sup>4)</sup>の報告でも1日2回以上のブラッシングは女性に多いと述べているが今回の調査においては、3回以上では女性が多かったが、2回では男女ともほぼ同数値を示しており、性差は認められなかった。また前回<sup>10)</sup>と比較すると、全体的に1日当たりの回数の増加が認められた。このことから、口腔清掃の重要性が世間一般に徐々に浸透し、意識の高ま

りがみられるようになってきたと思われる。

悪習癖ではいびきが44.5%で約半数を占めた。以下、口呼吸、歯ぎしり、咬爪癖・パイプの順であり、前報<sup>10)</sup>と順位は同様であった。いずれも男性に多くみられた。悪習癖と歯周疾患との関連について調査した報告はあまり多くないが、口呼吸に関しては古くから研究が行なわれており、齶蝕や歯周疾患、不正咬合等と密接な関係があることが報告されている<sup>11)</sup>。いびきをかく人は鼻疾患が原因していることが多く、その場合は口呼吸を伴うため相当数の患者が悪影響を受けているものと思われる。また、歯ぎしりをする人が依然として10%以上みられ、歯周疾患の進行、予後に少なからず影響を及ぼしているものと考えられる。前回<sup>10)</sup>と比較すると、数値は全体的に約5%の増加が認められた。

全身疾患の既往歴では、入院手術経験者が24.0%と最も多く、50歳代の割合が高かった。麻疹、流行性耳下腺炎の数字が予想外に低かったが、これは病名の不理解によるものと思われる。その他では高血圧、胃潰瘍の16.4%が高い割合であり、以下、心疾患、糖尿病、肝炎の順であった。前回<sup>10)</sup>と比較すると、高血圧はおよそ6倍の増加が認められた。

アレルギーに関しては、薬物によるものが11.7%で高い割合を占め、アレルギー体質が5.6%、食品アレルギーが2.8%であった。近年、アトピー性皮膚炎、ハウスダストや花粉によるアレルギー等の出現率が急増し、大変注目されるようになった。歯科領域においても今まで以上に、治療に際して考慮していく必要性があり、これ以降も重要な観察すべき項目の1つであると思われる。

全身疾患は、血液、心・呼吸器、泌尿器の順で多く、いずれも10%以上占めた。

これらのことから、患者は何らかの全身疾患や病歴を有していることが多いため、歯周治療を行なう際、特に投薬や歯周外科治療時において、注意が必要であることが示唆された。

次に、女性に関しては、生理リズムや初潮年齢は前報<sup>10)</sup>の結果とほぼ同様であったが閉経年齢、妊娠回数に増加傾向がみられた。女性の場合、生理や妊娠回数は歯周疾患の二次的因子になるといわれている<sup>11)</sup>。

今回の調査結果をもとにさらに例数を増やし、

この質問表が歯周治療の補助として有用となるようにさらに研究を続けるつもりである。

## 結 論

昭和61年から平成元年までに松本歯科大学病院歯周病科に来院した427名(男性207名、女性220名)を対象に初診時の質問表について調査し、さらに前回<sup>10)</sup>の結果と比較検討し、次の結果を得た。

1. 来院患者は前回<sup>10)</sup>が40歳代が最も多かったのに対し、今回は50歳代が多く、次いで40歳代、30歳代の順で女性に多かった。

2. 主訴については、食片圧入の74.0%を最高に歯列不正、出血、咀嚼障害の順でそれぞれ50%以上であり、前回<sup>10)</sup>と同項目に集中していた。また、各主訴において、50歳代の占める割合が多く、男女間の差は他の年齢層に比べ大きかった。

3. 嗜好品では飲酒、喫煙ともに男性に多く女性の5倍近かった。しかしこれは前回<sup>10)</sup>と比較すると減少傾向を示していた。また、食物に関しては、蛋白質、炭水化物を好む者が多く、固い食物を好む者は35.4%であり50歳代に多く、前回<sup>10)</sup>よりも増加していた。

4. 過去における治療経験では、歯石除去を受けたのは、49.6%を占めた。また、何らかの歯周治療の経験者は、38.4%であった。前回<sup>10)</sup>よりも減少していた。

5. ブラッシングの回数は、1日2回が42.6%と最も多く、次いで1日3回が27.5%であった。前回<sup>10)</sup>よりも全体的に1日当たりの回数に増加がみられた。

6. 悪習癖についてはいびきが44.5%と最も多く、どの項目も男性に多くみられたが、前回<sup>10)</sup>との比較では全体的に減少していた。

7. 全身疾患では流行性耳下腺炎、麻疹、高血圧、胃潰瘍の順で多かった。高血圧は前回<sup>10)</sup>より6倍の増加が認められた。

8. 女性に関しては、来院数の多い30歳代、40歳代に生理不順、生理痛が多く、平均妊娠回数は2.5回であった。前回<sup>10)</sup>より、閉経年齢に増齢化が認められた。

今回は、前回よりも年齢の高齢化が認められた。この事が各項目の結果にも反映しており、50歳代に集中した。また、全身疾患を持つ患者の急増、喫煙、飲酒者の減少、閉経年齢の増齢化等が認め

られ、今後さらに、注目していきたい。

#### 文 献

- 1) 松木健二, 渡辺好郎, 横藤英夫, 中村良行, 菅原教修, 松丸健三郎, 上野和之(1985) 歯周疾患の統計的観察. 日歯周誌, 27: 671-672.
- 2) 神田隆行, 大森みさき, 長谷川明(1992) 歯周疾患(慢性辺縁性歯周炎)患者の初診時診査項目に関する検討. 日歯周誌, 35: 145-156.
- 3) 上野益卓, 岡部秋彦, 玉井憲二, 佐藤昌司, 三上格, 河野昭彦, 深井浩一, 高橋克弥, 大滝晃一, 長谷川明(1985) 歯周疾患(慢性辺縁性歯周炎)患者の初診時項目に関する検討. 日歯周誌, 27: 618-634.
- 4) 浦浩二郎, 永松 敬, 國松和司, 岡本行人, 清水満廣, 小鷲悠典, 加藤伊八(1984) 長崎小離島の口腔内疾患に関する疫学的研究. 日歯周誌, 26: 757-766.
- 5) 金山奎二, 宇都宮淳, 樽井邦博, 伊藤茂樹, 塩谷清一, 小沢嘉彦, 太田紀雄(1987) 歯周病の統計的観察2, 昭和55~57年における初診時の主訴とその処置についての検討. 松本歯学, 13: 50-56.
- 6) 金山奎二, 宇都宮淳, 樽井邦博, 伊藤茂樹, 塩谷清一, 小沢嘉彦, 太田紀雄(1987) 歯周病の統計的観察3, 昭和58~60年における初診時の主訴とその処置についての検討. 松本歯学, 13: 57-63.
- 7) 今川与曹(1968) 私の歯周病学教育をかえりみて. 歯界展望, 31: 968-988.
- 8) 佐々木隆博, 鈴木英夫, 松本健三郎(1972) 歯周疾患の統計的観察1, 主訴から診た患者の実態について. 日歯周誌, 14: 26-32.
- 9) 新谷史子, 中嶋美紀子, 塩野宗則, 大場浩二, 新井 高, 中村治郎(1982) 歯周疾患患者の問診表の統計的観察. 日歯周誌, 24: 165-175.
- 10) 金山奎二, 伊藤茂樹, 呉 中興, 小沢嘉彦, 中山雅弘, 坂本 浩, 太田紀雄(1987) 歯周病の統計的観察, 第5報 初診時における質問表について. 日歯周誌, 29: 1170-1180.
- 11) 岩山幸雄, 太田紀雄, 栢 豪洋共著(1984) 新歯周病学, 第1版, 71-82. 書林, 東京.
- 12) 北村中也, 角田治美, 高梨英樹, 信染みどり, 寺田恵美子(1978) 本学歯学部付属病院における初診患者の主訴及び疼痛について. 鶴見歯学, 4: 7-11.
- 13) 青山 旬(1994) 美しい歯とたばこ. からだの科学, 183: 43-45.